

1982年度大型水路実験の概要について

飯 島 英 夫 (水理実験センター)

泉 耕 二 (水理実験センター)

池 田 宏 (水理実験センター)

1982年度の大型水路施設を使用して行なわれた
実験の内容を簡単に示した。また、実験を行なう

にあたって必要な保守等もいっしょに下記の表に
よって示した。

第 1 表

月 日	勾 配	流量(m ³ /sec)	Run数	実験の内容および実験のための保守等
4 月 }				<ul style="list-style-type: none"> ◦ 篩分混合・給砂装置など各部点検・調整 ◦ 低水槽砂泥除去 ◦ 水位計・砂面計キャリブレーション ◦ 予備実験
5. 1 }	$\frac{1}{400}$	0.05	13	◦ 流量と砂床形の関係
7. 9		1.5		◦ 堆積構造の観察
7. 12 }	$\frac{1}{100}$	0.2	4	◦ 増水時・減水時の砂堆の変形
7. 15		1.6		◦ 流量と砂床形の関係
7. 16 }	$\frac{1}{200}$	0.2	4	◦ 流量と砂床形の関係
7. 20		1.6		
9 月				◦ 沈砂槽・低水槽砂泥除去
10. 26 }	$\frac{1}{400}$	1.5	1	◦ 砂堆の発達に伴う流れと浮遊砂の変化 (定流の場合)
11. 22				
12. 28 }	$\frac{1}{400}$	0.2 ↓ 1.5 ↓ 0.4	1	◦ 砂堆の発達に伴う流れと浮遊砂の変化 (不定流の場合)
1. 7				
1 月 }				<ul style="list-style-type: none"> ◦ ポンプ配管の水抜き(凍結防止のため) ◦ 砂泥除去用搬入路新設工事 ◦ 砂礫循環装置など各部点検・調整